

＜別紙＞

障害のある子どもの放課後活動、
障害のある青年・成人の余暇活動についての質問
回答欄

1. 放課後等デイサービスの制度改善について

障害のある子どもの放課後活動を支える、国の制度として、放課後等デイサービスがあります。

2018年度に実施された、障害福祉サービスの報酬改定では、“もうけ本位の悪質な業者を除く”という理由で、“子どもの障害の重さを指標で判定した結果、障害が重い子どもが半数以上いなければ報酬を大幅に削減する”という改定が行なわれました（指標判定と報酬区分）。これによって、もうけ本位とは無縁の事業所まで運営困難に至るといった問題が起こっています。

また、新型コロナウイルスの問題では、感染を避けるため、子どもが事業所を欠席したり、事業所を休所したりすると、報酬が激減する問題が起こりました。そのため国は、欠席した子どもに、家庭で代替りの支援をすれば報酬が支払われる手立ても取りましたが、家庭で行なうには無理な課題を強いることになったり、事業所を欠席するのに保護者は利用料を支払うことになったりする問題が、さらに生じています。これらの問題の背景は、出来高払いで報酬が支払われる（それにとまって、保護者の利用料も発生する）という、今の制度の仕組みがあります。

2021年度には次期報酬改定が予定されています。私たちは、この機会に、指標判定・報酬区分は廃止するとともに、出来高払いの報酬制度を大幅に見直すべきだと考えます。都として、こうした方向で、国に強く働きかけてほしいと考えます。

また、国の対応を待たずに、以上のような方向で、都独自に対策を講じてほしいと考えます。事業所の運営を安定させるために、東京の社会的な位置、地価の高騰、最低賃金の値上げなどを考慮した、都独自の補助も必要と考えます。

これらについて、どのようにお思いですか（以下のいずれかに○印をお書きください）。

③その他 [○]

何かご意見がございましたら、お書きください。

わからないやね。これは専門的すぎて、あの、そこの反対側の意見を聞かないと、なんとも言えないですね。その一方者側の話を聞いて判断するほど愚かなことはないので、国の担当者の、こんなの正解なんてどこにもないから。というのは、障害のある子供のことを考えだしたら、税金いくらあっても足りなくなるので、ある程度我慢してもらうことも考えなきゃいけない。これが僕が言っている切り捨てるという意味です。何でもかんでも100点を求めに行ったら、お金いくらあっても足りなくなるので、本当にこの放課後等デイサービス、いわゆる障害のある子供たちにそういったサービスを提供しなければいけないのかも含めて、まさに海外の事例も含めてやらなきゃいけないので、これはもう専門家チームを作ってくださいね、ある程度の勉強機関において僕が都知事になったら最終判断を下すということになりますね。ちょっと難しすぎます、この問題は。こんなのすぐには回答出来ませんね。

2. 障害包括補助の制度改善について

特別支援学校等を卒業すると、放課後等デイサービスは利用できなくなるため、青年・成人期の余暇活動を求める声が高まっています。都内で自主的に活動しているグループは、困難な運営を余儀なくされながらも、次のような重要な役割を果たしています。

- (1) 地域での自立生活が福祉計画化されていても、入所施設は少なく、居宅支援は常に人材不足となっている中で、重い障害のある、1人で過ごせない人への支援、親の就労・高齢化への支援を行なう。
- (2) 社会生活の向上を図り、健康や学習、生きがいを確保するとともに、労働や日中活動への意欲を高める。

都は、青年・成人の余暇活動も、都の独自制度である「障害者施策推進区市町村包括補助事業」の補助対象にしているものの、区市町村の財政負担が生じるため、補助対象となる活動が増えていません。また、補助対象となっても、日常的な活動ではなく、単発的な行事ばかりになっていて、(1)で掲げたような活動への支援策にはなっていません。

私たちは、障害のある青年・成人の余暇活動が発展するように、「障害者施策推進区市町村包括補助事業」の補助率の見直しなど、区市町村が積極的に参加・計画できるような拡充が必要であると考えます。

これについて、どのようにお思いですか（以下のいずれかに○印をお書きください）。

③その他 [○]

何かご意見がございましたら、お書きください。

おんなじやね。障害者の問題については、あの、もう本当専門家と話をした上で、すべてもう満足する回答することは俺は出来ないと思ってるので、あの、これどうしてもね、こういうのって多くの人はいれもしてあげよう、これもしてあげようって言うんだよね。選挙の時には。でもね、僕はやっぱり切る勇気っていうかな。仕方がないから、障害者を守るよりも僕は健常者を守ることを選択しないとイケないので、お金の余裕があればやりたいと思うけれども、そうじゃなければ相当このサービスは障害者に対するサービスは低下するというように考えてもらうしかないですね。あの、後から嘘つきの嫌なんで。ただね、かと言ってゼロにするつもりはないので、そこは本当に現場実態よく調べさせて頂いて、実態に見合った対応をしていきたいと思えます。

以上です。ご協力ありがとうございました。回答欄の用紙2枚のみをご送付いただけますと幸いです（送り状は不要です）。

■回答いただいた候補者の名前 [立花 孝志]

■候補者事務所の担当者の名前 [尾崎 全紀]

■候補者事務所の連絡先 080-3834-8664